

子どもたちに体を動かすことのおもしろさ、
楽しさを伝えよう!

元気に遊ぼう!

ACP

〈連載〉第3回
アクティブ・チャイルド・プログラム
キッズ

昨年度より本格的な普及がスタートした「幼児期からのアクティブ・チャイルド・プログラム（以下、ACP）」。「どのように活用していけばいいのか」をテーマに、全国各地で「遊び教室」を開催し、その模様をレポートしてきた。本格普及2年目を迎えた今年度は、小学校や幼稚園、保育所、総合型地域スポーツクラブなどで実際に活用されているACPの模様をレポート。幼少期の子どもたちを指導する皆さんに役立つヒントを提供していく。

愛知県

小学校が主体となった教員と 児童へのACP普及がスタート! 校庭に元気と笑顔を取り戻す

子どもたちが遊べる機会を
学校がつくっていく

愛知県の春日井市立八幡小学校では、ACPを活用した児童の体力向上、生活習慣の安定を図る取り組みを今年度よりスタートさせた。この取り組みを発案し、中心となって推進してきた伊藤治彦校長に、これまでの経緯を聞いてみる。

「私は2年前まで中学校の校長で、昨年春に転任して現職になりました。中学校では運動の主体が部活動で、運動部以外の生徒が体を動かす機会は少なくなります。しかし、小学校では遊びを通して、子どもたちの人間関係や社会性が育まれる。遊びがすごく大事だと常々思っていました。私も小学校の教員だった若いころは、子どもたちと一緒にかなり遊んだものです。ところが、現実的に

は、若い先生が校庭で遊ぶ姿があまり見られない。本校は全校児童数219人という小さな学校です。先生方はとにかく仕事が多い。若いからといって、放課後に外で遊べるわけではない。現場の環境があることを感じました。自分が思い描いている、子どもたちが校庭で元気に遊ぶ姿は見られないのか。そこで

着目したのがACPでした」

春日井市では以前より、『創意と活力』のある学校づくり支援事業」を公募している。3年計画で、学校の特色を出して、教育的な活動に取り組みプログラムを提案。審査にパスすれば事業費が支給される。ACPを活用して、児童の体力づくりや生活習慣の安定につなげられないかと考えた伊藤校長は、この事業に応募して、みごとに審査をパス。今年度から八幡小学校では、体育の授業や外遊びなどでACPを導入することになった。

「本校は春日井市の中心部にあって、周りはどちらかというと商業地。子どもの数や、遊べる公園の数も少ない状況です。そういうなかで、遊べる機会を学校でつくって、子どもたちに楽しいことを伝えていきたいと強く思っています」

ACP導入を本格的にスタートさせた
春日井市立八幡小学校



よしひと
監修／佐藤善人
東京学芸大学 教育学部 准教授



八幡小学校の体育館で開催されたACPの遊び体験。「体じゃんけん」で元気に飛び跳ねる2年生

保護者を巻き込んだ 基本的な生活習慣づくり

ところで、伊藤校長に聞くと、ACP導入には、別のきっかけもあるという。北名古屋市内の学校で養護教諭を務める校長の奥様が、数年前に、遊びの伝道師、佐藤善人先生にACP講習を依頼したのが縁の始まりだ。「ACPで外遊びから生活習慣の確立をきちんと行いたい」という話を、奥様から常々聞いていた伊藤校長。八幡小学校赴任後に、児童たちの状況を目の当たりにして、ACPを思い出したというわけだ。早速、佐藤先生に連絡を取り、ACP講習会開催の快諾を得て、春日井市に支援事業を申請。企画内容も問題なく認可され、よ



「佐藤先生には年に3回の講習会を開いてもらい、3年間は継続したい」と語る伊藤治彦校長



遊び体験の前に、守らなければいけないルールの説明をする佐藤善人先生

うやくことしの6月18日、第1回目の講習会にこぎ着けた。

ちよつどの日は保護者参観日。6年生と2年生のクラスには、佐藤先生による「遊び体験」が体育館で実施された。ここにも伊藤校長のねらいはあった。

「保護者を何とか（ACPに）巻き込みたい、という思いがありました。基本的な生活習慣を子どもたちに身につけさせるには、保護者の協力は絶対に必要です。「よく遊び」「よく学び」「よく食べ」「よく寝る」、そして生活習慣が身につく。そのきっかけづくりとなるACPを



6年生の遊び体験で実施された「こところろ」。鬼が列のいちばん後ろの子にタッチしたら勝ち。詳しい遊び方は日本体育協会「アクティブ・チャイルド・プログラム」のサイト参照。
http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/acp/shidousya_toroloco.html

保護者に知らせるために、参観日は絶好の機会でした」

また、6年生と2年生のクラスを選んだのにも理由がある。昨年の全国体力テストで、当時の5年生（現在の6年生）の平均点が低く、特に女子の体力は全国平均を大きく下回っていた。また、質問紙によるアンケート結果からも外遊びやスポーツをする機会が極めて少ない現状がうかがえた。それだけに、少しでも体力アップを図り、6年生としてリーダーシップを取ってACPを推進してもらいたいという願いがあった。一方、2年



6年生のクラスで行われた「人間知恵の輪」。手と手をつないで知恵の輪のようになった腕をほどいていく遊び。人数が多くなるほど難しい

生に関しては、担任の先生から「ACPでは2年生の児童にどのような運動をさせるのか、教師として学びたい」という強い要望があったそうだ。

佐藤先生の「遊び体験」は、両学年とも45分間で6〜8種類の遊びを展開。特に2年生の「大根抜き」では保護者も参加して大盛り上がりとなった。

「保護者を巻き込んで遊べたのでよかったです。保護者（ACPの）理解を得られると、学校の行事でも協力を得られるようになる。近くに幼稚園や保育所もあるので、幼児と児童が交流できるように発展すると、地域としての体力向上にもつ



親子が一緒になって汗を流して楽しんだ「大根抜き」。詳しくは以下参照。http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/acp/shidousya_radishwithout.html

やってみよう!

佐藤先生のおもしろACP

【しりとりジョギング】

遊び体験で、6年生も2年生も両方のクラスで行ったのが「しりとりジョギング」。2人1組で、体育館の中をしりとりしながらジョギングする。しりとりだけでなく、例えば2年生であれば、掛け算九九をやりながらジョギングしてもいいだろう。



ながります」

伊藤校長の夢は広がっていく。

教員たちの

ACP活用により

子どもたちの表情を豊かに

保護者参観日(6月18日)の午後、教員たちを集めて、佐藤先生による「ACP研修会」が開かれた。八幡小学校では、クラス担任が体育の授業も受け持っている。研修会に参加した教員がACPに興味を持ち、体育の授業や休み時間の運動に活用してもらうのがねらいだ。



子どもたちの声

秋山瑞貴さん(6年生)

「低学年の生徒とも遊べるのがよかったと思う。放課後、公園で遊ぶときにやってみたい遊びばかりだった」



子どもたちの声

はると
神田暖仁くん(6年生)

「どれも初めての遊びで楽しかった。いつもは鬼ごっこをやっているけど、次はほかの遊びも試してみたい」

多さに感心する。

「ふだんは休み時間に外へ出ない子が、きょうは顔を真っ赤にして汗を流し、楽しかった」と言っていました。たぶん遊びを知らないからです。教員は遊びを伝えたり、紹介する、とても重要な役割を担っていることがよくわかりました」

伊藤校長は今後、体育の授業や放課後の遊びでACPを活用するだけでなく、「なかよし班活動」でも実践したいと考えている。「なかよし班」とは1年生から6年生まで縦割り集団で班をつくり、異学年で交流を図る活動。八幡小学校伝統の活動で、多いときは1カ月に2度ほどの割合で開かれてき

た。上級生は下級生をサポートし、下級生は上級生から遊び方を学んでいく。ACPの効果が見え、さらに発揮される活動といえる。

このほかにも、マラソンや縄跳びなどの運動週間の一つとしての活用や、児童集会での実践も考慮中だ。

「研修会に参加した先生たちにACPのイメージを持ってもらい、それを学校中で実践してもらいたい。例えば、学級ごとに計画を立て、週に1、2回はみんなと一緒に遊ぶとか、体育の授業では最初に、児童主導で鬼ごっこをする、授業前には必ず体じゃんけんをしてから、あいさつを行うなど、とに



教員を集めてのACP研修会

かく遊びに結びつける。3年計画なので、3年後に体力テストを実施したら体力結果が伸びているとか、子どもたちの表情がさらに豊かになっているとか、

そういう成果が生まれるといいですね」

佐藤先生も、八幡小学校の取り組みに、大いに期待を持っている。

8